

# 山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

<認知症対応型共同生活介護用>

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用  
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援  
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	672500436
法人名	最上町
事業所名	最上町認知症高齢者グループホームやすらぎの家
訪問調査日	平成 20 年 8 月 11 日
評価確定日	平成 20 年 10 月 3 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

#### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月26日

## 【評価実施概要】

事業所番号	672500436
法人名	最上町
事業所名	最上町認知症高齢者グループホームやすらぎの家
所在地 (電話番号)	山形県最上郡最上町大字向町64-3 (電話) 0233-43-3378

評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字久保6番地		
訪問調査日	平成20年8月11日	評価確定日	平成20年10月3日

## 【情報提供票より】(平成20年7月18日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 7.3 人

## (2) 建物概要

建物形態	○併設/単独	○新築/改築
建物構造	RC 造り	1階建ての 階 ~ 1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有( 円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,380 円

## (4) 利用者の概要(7月18日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	78 歳	最高	93 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	最上町立最上病院、小川歯科医院
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域で人間らしく過ごせる生き方を支援するために、保健、医療、福祉が連携したウエルネス・タウンの中にあり、夜間の緊急時でも隣接の病院での診察や老人保健施設の看護師の対応が可能な安心感のあるホームです。ホームの廊下とホールは広くてゆったりとしており、隣接の老人保健施設や病院、温泉施設等とも廊下でつながっているため、病院にある足湯に出かけたり、雨の日や冬期間にはこの廊下を利用した散歩も可能なホームです。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	職員を育てる取り組みについては、定期的開催している職員会議に内部研修も組み入れて実施されており、また、参加した外部研修の内容は他の職員にも伝達研修の形で伝えられ、職員のレベルアップに生かされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	毎月の業務検討会議で職員全員が課題について話し合い、検討事項は改善に向けて取り組みを進めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議要綱を作成して定期的開催されており、会議で出てきた意見も取り入れながら、サービスの質の向上に役立っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	春と秋の年2回家族会を開催しており、運営推進会議で出された利用者や家族の意見、家族面会時に個別に話を聞いた内容をホームの運営にも反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の夏祭り・地区の秋祭り・お花見に出かけたり、季節の野菜を差し入れてもらったりしながら、地域住民との交流に努めている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域社会との同調」「地域に開かれた施設」「地域や家庭との結びつきの重視」を運営の方針に盛り込み、住み慣れた地域の中で安心して暮らせる地域密着型サービスの理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念を実践できるように、大きく分かりやすく書き直して掲示し、業務に従事する時に確認しながら取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭り・地区の秋祭り・お花見に出かけたり、季節の野菜を差し入れてもらったりしながら、地域住民との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎月の業務検討会議で職員全員が課題についてを話し合い、検討事項は改善に向けて取り組みを進めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議要綱を作成して定期的開催されており、会議で出てきた意見も取り入れながら、サービスの質の向上に役立っている。		

山形県 グループホームやすらぎの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	毎月、町主催の連絡協議会が開催され、課題についての検討や勉強会を開きながら、役場とも連携してサービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	利用者の生活状態や健康状況については、細かに電話で連絡しており、金銭管理も毎月の面会時に確認してもらっている。職員の異動等は定期的に送付している家族通信で報告されている。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	春と秋の年2回家族会を開催しており、運営推進会議で出された利用者や家族の意見、家族面会時に個別に話を聞いた内容をホームの運営にも反映させている。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	法人内での職員異動はあるものの、十分な引継ぎに加え、慣れるまでは職員数を増やしたり、夜勤を2人に増やして利用者へのダメージを減らすよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	定期的で開催されている職員会議の時間内に研修の時間も設けており、「体位交換」「AED(自動体外式除細動器)」などについての研修を行っている。また、外部研修にもできるだけ参加し、受講後には他職員への伝達研修により職員のレベルアップに取り組んでいる。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	定期的で開催されている最北地区グループホーム連絡協議会などの場を活用し、意見交換や互いのホーム見学を行いながら、利用者・家族へのサービスの向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<b>【小規模多機能型居宅介護のみ】</b> ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が利用者を常に介護するのではなく、食事の準備や畑仕事等を利用者からも教えてもらいながら、利用者と職員と一緒に過ごすようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の話を聞きながら希望や意向の把握に努めており、困難な場合でも家族から話を聞き、本人本位で検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族から話を聞き、職員全員でどのように支援していくのがよいかを話し合っって介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月介護計画の評価を実施しており、6ヶ月毎に計画を見直している。また、状態変化が見られた時には、随時の見直しが行われている。		

山形県 グループホームやすらぎの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<b>【小規模多機能型居宅介護のみ】</b> ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	ホームに併設の町立病院と連携がとれており、緊急時 や夜間でも診てもらえる体制が整えられている。また、 希望に応じて町立病院以外のかかりつけ医にもかかる ことができ、適切な医療が受けられるよう家族とも連携 が図られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	看護師を職員として配置し、医療連携体制を作ってい るが、重度化した場合や看取りに関する指針はまだ整 えられていない。	○	利用者が重度化した場合や看取りに関する指針を作成 し、職員全員で方針を共有していく基盤づくりの組み 組みも期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	利用者の誇りやプライバシーを損ねるような声かけや対 応にならないよう日頃から気をつけており、記録等の個 人情報の取り扱いにも十分注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの個性やペースを大切にしながら、利用者 の体調や希望を考慮した支援を行っている。		

山形県 グループホームやすらぎの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に山菜採りに出かけて採った山菜を漬けたり、献立も利用者と一緒に相談しながら決めている。食事の準備や後片付けも共に行き、外食にも1～2ヶ月に1回位は出かけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を確かめながら、その人のペースに合わせた入浴支援を行っている。また、希望に応じて夜間も入浴できるようにしており、隣接の病院にある足湯に入りに行くこともある。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や特技を活かして毎日献立を記入したり、テーブル拭きや畑仕事での草取り・収穫を手伝ってもらするなど、一人ひとりの役割や楽しみがもてるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の健康状態や天候に合わせて中庭の東屋で景色を眺めたり、散歩やドライブ、買い物に出かけるようにしている。雨や冬は廊下続きの隣接施設を散歩している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、玄関やホールにも鍵をかけていないので中庭にも自由に出ることができる。また、玄関から出て行きそうな時でも、声をかけたり、一緒に散歩に出かけるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣施設全体で年2回、定期的に防災訓練を行っており、ホーム単独でも防災器具操作法訓練や避難訓練、通報訓練を夜間も想定して実施している。		

山形県 グループホームやすらぎの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個人の食事や水分量を把握しながら、変化があれば記録や引継ぎによる情報の共有化に努めている。また、不足している点がある場合には代替りの物を準備して提供する支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広くゆったりした廊下やホールには行事や外出時の写真、季節の飾り物が掛けられており、ホールの大きなソファの前には大型テレビが備えられ、ゆっくりとくつろげるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には持ち込みが自由で、使い慣れた物や好みの物をそれぞれ持ち込んでいる。また、希望があれば「畳に布団」の対応もできるようになっている。		